

のり海況速報 第10報 (23-10)

平成24年 2月15日発行
 千葉県水産総合研究センター
 東京湾漁業研究所
 千葉県農林水産技術会議

資料 のり海況調査 2/9, 13 : 内湾(わかふさ)、2/9 : 内房北部(ふさみ丸)
 関東・東海海況速報、東京湾口海況図・ふさなみ航走水温データ(1/26-2/14)
 拓南観測データ(11/1-2/13)
 モニタリングポスト(2/13 : 国交省関東地方整備局)

【水温・塩分の状況】

内湾の表層水温(図1)は前報(1月23日)よりさらに1°C下がり、ほぼ8~9°C台になっています。一方、内房北部の表層水温は沖合水の影響によってやや上昇し、ほぼ11~14°C台になっています。湊ベタ流し漁場周辺では水温14°C以上、塩分34以上の水塊がみられ、浦賀水道航路入口付近にはやや強い沖合水(水温15°C以上、塩分34.5以上)が流入しています(図2)。昨日(2/14)あたりから弱まっているものの、依然この動きには注意が必要です。

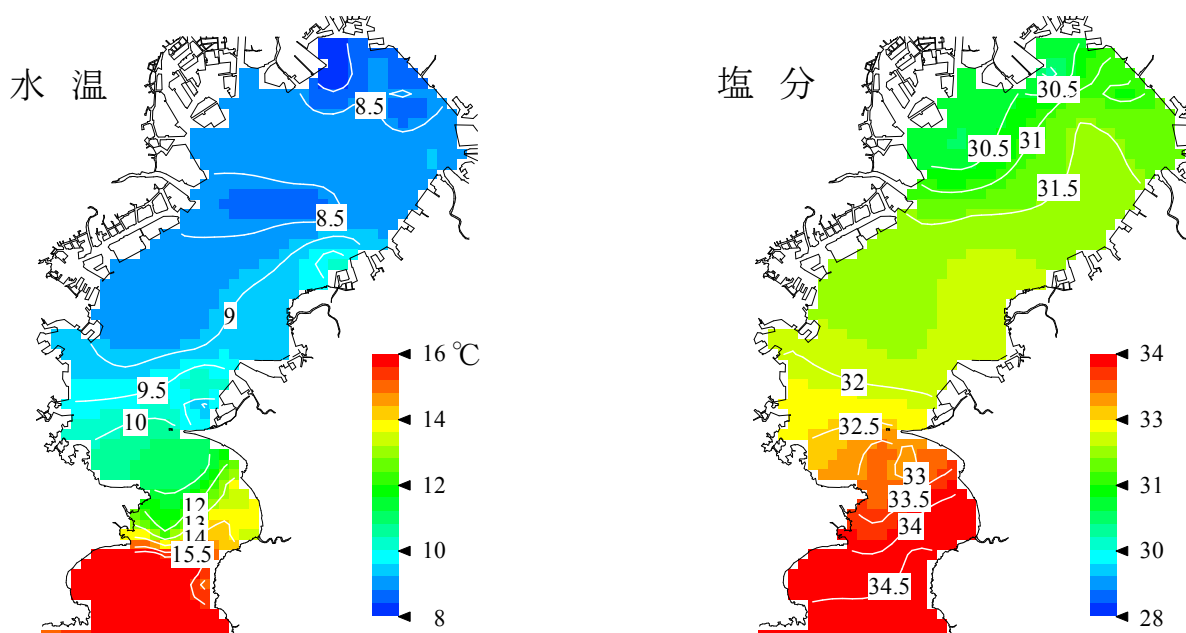


図1 表層の水温・塩分分布 (内湾~内房北部:平成24年 2月9, 13日)

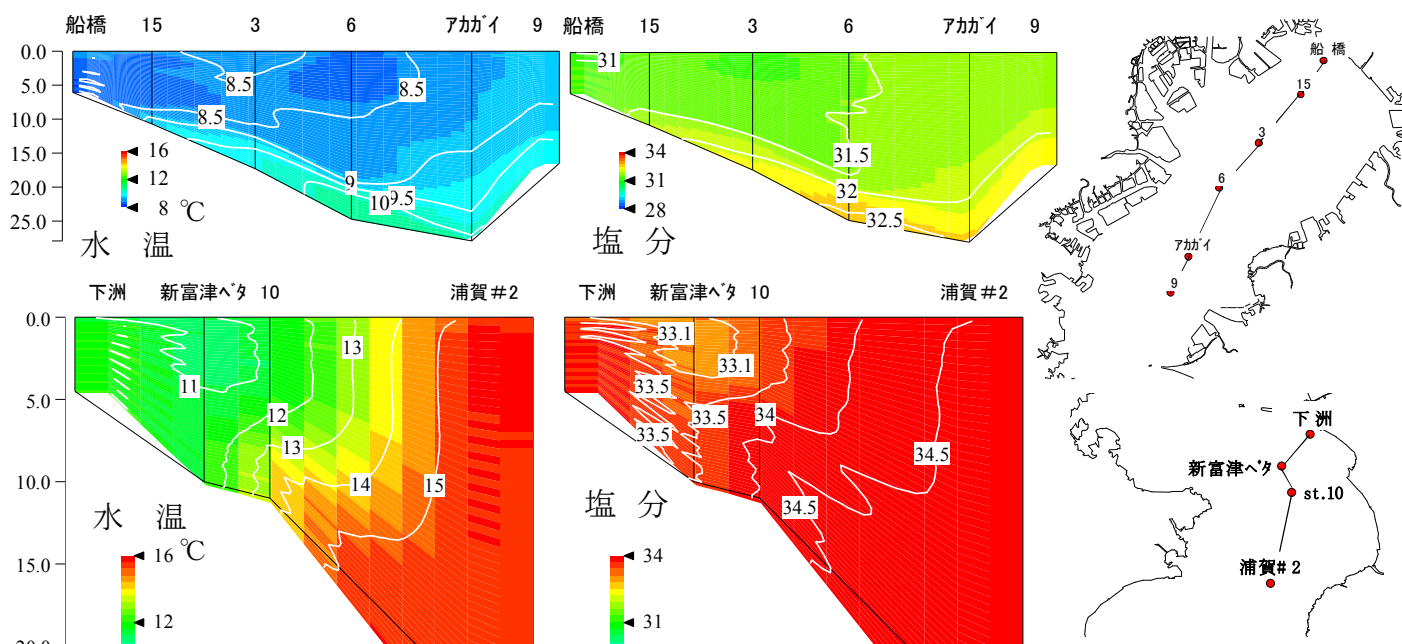


図2 断面の水温・塩分の鉛直分布(平成24年 2月9, 13日)
 (上:内湾(2/13)、下:内房北部(2/9)、右:調査ライン)

【赤潮・栄養塩の状況】

1月10日頃から、アクアライン以北で発生した赤潮は31日頃に終息し、現在も発生していません。透明度は内湾北部及び内房北部でやや低いところがありますが、おおむね5m以上あります。水色は緑～黄緑色で、プランクトンは内湾北部でやや多くみられ、ケイ藻のタラシオネマ、ディチウム及びスケルトネマがみられています。また、ノリの色落ち被害をもたらすユーカンピアもわずかながらみられています。

表層の栄養塩(図3)は大貫及び湊ベタ流し漁場周辺で窒素(DIN)がやや少ないが、ほぼ全域で十分あり、各地先の栄養塩濃度(図4)も2月9日頃から回復しており、現状ではのり養殖にとってほぼ問題ない濃度です。

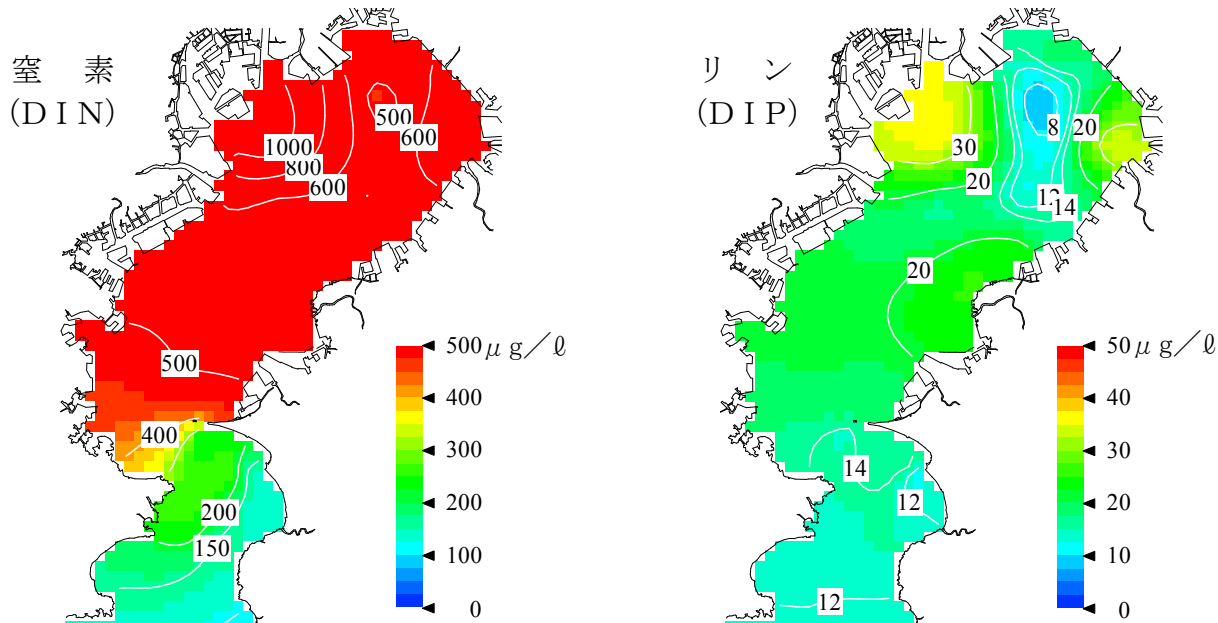


図3 表層の栄養塩濃度の分布 (内湾～内房北部：平成24年2月9, 13日)

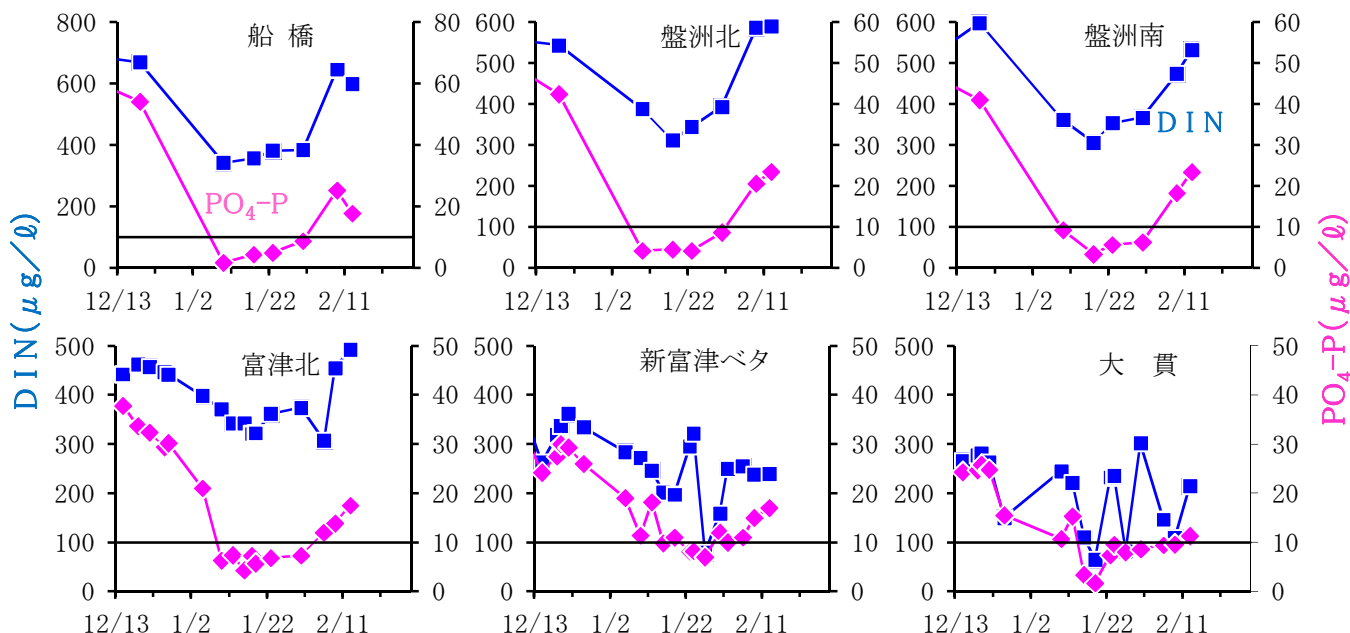


図4 各地先における栄養塩濃度の経過 (表層：平成23年12月1日～24年1月24日)

り養殖場水温予報のお知らせ

今年も、各り養殖場(三番瀬, 盤洲北部, 盤洲南部, 富津岬北, 富津岬南)について、5日先まで表層水温を予報しています。パソコンまたは携帯の検索サイトで”り養殖場水温予報”で検索するか、下記アドレスを直接入力してご覧ください。

パソコン：http://www.pref.chiba.lg.jp/pbcbisuishi/cbtk/04tk-yohou/main_frame.html

携帯：http://www.pref.chiba.lg.jp/pbcbisuishi/cbtk/04tk-yohou/mobile_forecast.html